

研究所探訪

情報処理教育センター

武藤 明則



昔より“情報を制する者が世界を制する”と言われています。戦国時代、諸国の大名たちは隠密を使って敵方のようすを密かに探っていました。インターネットなどない時代ですから、敵地に潜入して自分の目と耳を使って情報を集めるしかなく、大変な手間と時間をかけて情報を入手していたのです。織田信長は27歳の時、まだ尾張の一豪族にすぎなかったのですが、「桶狭間の戦い」で今川義元に勝利することによって、「尾張に織田信長あり」とその名を天下に轟かせました。勝因は信長が情報戦に勝利したことにあります。信長は家臣を使って今川軍の動きを逐次探り、「義元は桶狭間で休息中」という情報を得ると、いち早く敵陣に突入しました。すっかり油断していた今川軍は総崩れとなり、信長は義元の首級を挙げたのです。

現代はコンピュータやインターネットの発達により、簡単に情報を入手できるようになりました。インターネットを使えば世界中の情報を検索したり、メールやフェイスブックによって世界中の人と情報を交換したりすることができます。しかし、溢れる情報に翻弄されている人が多いのではないのでしょうか。信長の時代は「いかに多くの情報を早く入手するか」が大切でしたが、今日では本当に価値のある情報を見極めて活用する“情報処理能力”が一人ひとりに問われているのです。

情報処理教育センターは「情報処理に関する教育・研究」を目的として1985年に設立されました。現在では、情報処理教育の研究と推進を担うとともに、クライアント室(パソコンを設置した教室)の利用サービスを提供しています。クライアント室には授業用教室と自由利用教室があり、本学の学生であれば誰でも利用できます。授業用教室は情報処理教育以外にも語学や統計学など多くの授業で利用されており、自由利用教室では自由な時間に授業の予習・復習をしたり、eラーニングシステムを使って英会話や就職対策講座を学習したりすることができます。また、図書館情報センターの情報サービス(蔵書検索、各種データベース、電子ジャーナルなど)を利用すると、みなさんの学習や研究のレベルは一段と高いものになるでしょう。

学生のみなさんは“情報処理能力”を高めることにより、学業ばかりではなくサークル活動や就職活動など、よりよい学生生活を送ることができるようになります。社会に出てからも仕事や日々の生活で“情報処理能力”は欠かせません。まさに“情報を制する者が自らの人生を制する”と言えるのではないのでしょうか。

本研究所のウェブ・サイト
<http://www.ecip.agu.ac.jp/>